

# 「原文に忠実な翻刻」をめぐる

豊島正之 (東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所) (日本語の文字と組版を考える会 1998 年 3 月 8 日)

各文献原文に対して「原文に忠実な翻刻」「厳密な翻刻」というものが存在し、それを可能にする為に極力微細な文字区別が必要である、とする主張がある。どうも、この立場には、文字区別を微細に行えば、主観が入り込む余地無く客観的に厳密な翻刻が出来る、という思い込みがある様である。

翻刻は、解釈である。

実際の翻刻を行えば直に分かる事だが、微細な文字区別から出発する事によって解釈が可能になるのではなく、実際の進行は全く逆で、精細な解釈を得て始めて、まともな文字区別が出来るようになるのが実情である。

キリシタン版「落葉集」(1598)とキリシタン版「ぎやどぺかどる」(1599)は、同じ印刷所で同じ金属活字によって印刷された。「恵」と翻刻される活字は少なくとも3種あり、仮に恵・恵・恵とする。用例は下記の通り。(ぎやどはバチカン図書館本、落葉集は天理図書館本による)。

1. ぎやど上 58 ウ 17 故にわれ彼に對して、心解渡りたり、又憐み/恵 むべしと
2. ぎやど上 102 才 11 DS 弥其人の為に恵み深き御君となり給ふべし
3. ぎやど上 51 才 12 \*さらもんの智恵、\*あぶそろんbe美麗\*さん/その力
4. ぎやど上 85 才 12 誠に智恵 明なる人なりといへども淫事に八眼をくらまし酒に酔て八本心を失ひ
5. 落葉集 9 才 智<sup>ち</sup> \*...-恵<sup>え</sup> ...  
さとし さとす
6. 落葉集 62 才 (正誤表) 同裡 \*二 - ヒ恵<sup>え</sup> 八恵<sup>え</sup> 也
7. 落葉集色葉字集 17 才 恵<sup>え</sup>

ぎやど上 58 ウ

上 102 才

上 51 才

上 85 才

落 9 才

落 62 ウ

落色 17 才

「ぎやど」の用例では、  
 恵 43例 恵み・恵む  
 恵 64例 智慧  
 恵 10例 智慧

で、恵・は「智慧」専用である。落葉集の正誤表は、恵・は、(見た目の字形は、どう見ても「恵」であるが)、「恵」と別字でなければ理解出来ない。落葉集小玉篇(部首分類)では、恵と恵を別見出しに立てている。(恵は落葉集に見えない様である)。恵・を、実は「慧」であると解釈すれば、「さとし」の訓も納得出来る。従って、「恵」～の翻刻には、次の二つの方針があり得る。

- A 恵み、智慧 見た目の字形は、どう見ても「恵」である。
- B 恵み、智慧 正誤表で訂正される程なのだから文字を変えて翻刻し、「さとし」の訓に現代でも違和感無い「慧」を用いる。

どちらも正しく、どちらも厳密である。Aは字形に厳密であり、Bは用法差・意図に厳密、と「厳密」の発揮させ方が違うだけである。但し、B種は、全文の用例分析の研究の後にはじめて可能である。当該字が出現を全て「出来る限り見た目に忠実に」翻刻して、どうなるというものではない。区別すべき文字は研究の後に分かるのであるから。

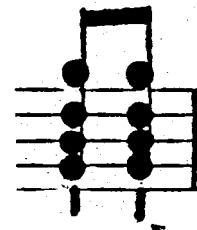
Fischer(1985)<sup>1</sup>は、ベートーベンがA(Waldstein ソナタ第1楽章)の様に無造作(というか乱雑)に書くマルカート・スタッカート記号に、少なくとも3種類ある事を発見した。(Bの様に初版譜の版自体が手で訂正された例、両者の区別を意識しない写譜者を糾弾したベートーベンの手紙等が遺る)。これによれば、BやC(Waldstein 第3楽章)の演奏(=解釈)は当然変容するし、そもそも楽譜印刷自体が再考を迫られる事になる。

Aを見れば、ベートーベンの記譜を「出来る限り見た目に忠実に」翻刻する等という事が徒勞であるのは明白で、この場合も、区別すべき記法は研究の後にはじめて分かったのである。



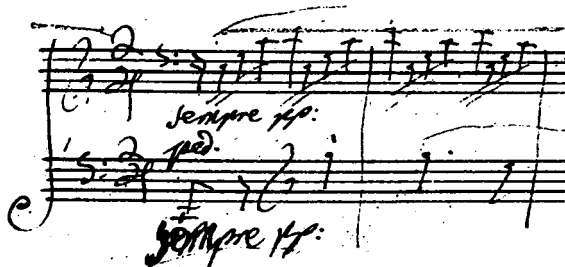
Bspl.: 4: Sonate Opus 53, 1. Satz, Schlußstakte. Autograph Beethoven-Archiv Bonn, Sammlung H. C. Bodmer

A Waldstein 1



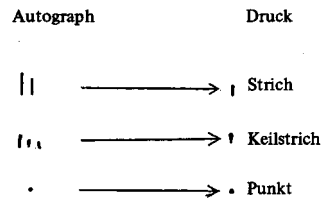
Bspl.: 3: Opus 27 Nr. 2, 3. Satz T. 4. Autograph Beethoven-Archiv Bonn.

B 月光 3



Bspl. 13: Sonate Opus 53, 3. Satz T. 1. Autograph Beethoven-Archiv Bonn, Sammlung H. C. Bodmer

C Waldstein 3



Übertragungsmodell Autograph – Notendruck

D Fischer 提案の記譜翻刻

<sup>1</sup>Fischer, Johannes(1985) Textkritik und Interpretation : Das Staccato in Ludwig van Beethovens Klaviersonaten( Schriftenreihe der Hochschule für Musik in München, 6, Gustav Bosse Verlag)